

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(1) 大人の科学教室

中学生以上を対象とした科学講座を、11月～2月にわたり月に1度、土曜日に開催した。講師は科学館職員が担当し、それぞれの専門分野を生かしながら独自の工夫を加えて講座を行った。内容は、いずれも実験・観察を中心とし、分かりやすく親しみやすいものとした。



第1回 11月29日(土) 10:00-12:00

「ゆれる大地」

講師 本郷 栄治 社会教育指導員

参加者 8名

地層や断層のでき方、さらには地震によって液状化現象が起こる仕組みについて、実験を通して確かめた。



第2回 12月20日(土) 10:00-12:00

「微生物の世界～マイクロウォッチングII～」

講師 数本芳行 社会教育指導員

石川 歩 社会教育指導員

参加者 8名

水中の微生物を光学顕微鏡や双眼実体顕微鏡で観察した。スマートフォンやデジカメで微生物を撮影した。



第3回 1月17日(土) 10:00-12:00

「錯視の世界」

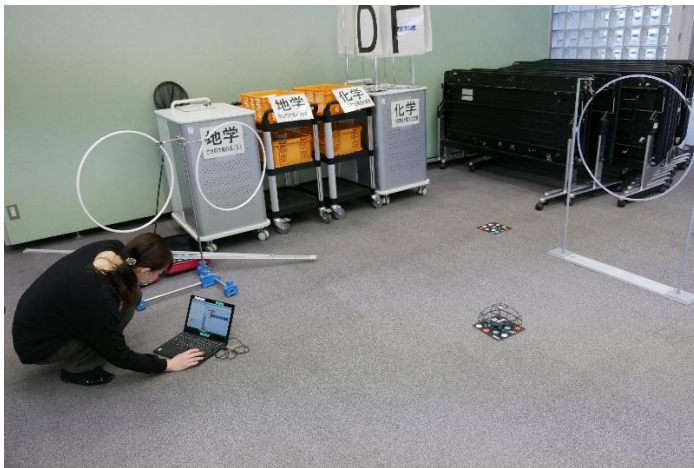
講師

佐藤 恵理子 社会教育指導員

関本 千広 社会教育指導員

参加者 10名

錯視の歴史と仕組みについて実際に体験しながら解説した。さまざまな立体錯視モデルを製作した。



第4回 2月21日(土) 10:00-12:00
「プログラミングでドローンを飛ばす」

講師 菅井 研二 社会教育指導員

川橋 勇人 社会教育指導員

参加者 12名

スクラッチ言語を使って、プログラミングの基礎を解説した。また、応用編として、ドローンが輪くぐりをして目的地に到着する課題を設定し、実技を行った。

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(2) ジュニア化学への招待 ～楽しい化学実験室～

この実験教室は、小学3年生以上を対象に、身のまわりの化学現象に目を向けて、化学のおもしろさ・不思議さを紹介し、化学をより身近なものと感じてもらうとともに、科学する心の高揚をはかることを目的として毎年開催している。日本化学会東北支部の共催のもと、宮城教育大学や県内高等学校の先生方に講師を依頼して実施した。

①「水中の鉄をはかってみよう！」（参加者 25 名）

- ・いくつかの試料に「1,10-フェナントロリン」を反応させ、鉄の含有量を調べる実験を行った。アルミホイルに含まれる鉄の量を調べる実験を行った。



鉄の含有量をはかる

②「オレンジの皮のひみつ」（参加者 34 名）

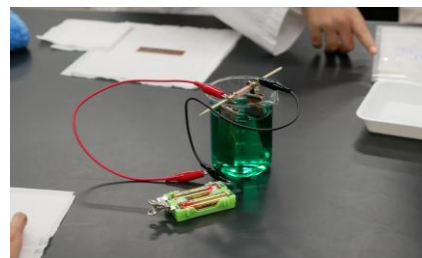
- ・オレンジの皮に含まれる(+)-リモネンのもつ性質を、実験を通して学んだ。また、発砲スチロールにリモネンの性質を用いて絵を描き、スタンプを作成した。



(+)-リモネンの燃焼

③「キラキラ金属めっきをしてみよう」（参加者 29 名）

- ・イオンの電気泳動について学習し、実際に銅板に絵を描き、硫酸ニッケルでめっきをする実験を行った。
また、身近でイオンが使われている例などを学んだ。



硫酸ニッケルによるめっき実験

④「ビタミンCの不思議な反応」（参加者 30 名）

- ・ビタミンCの還元性によってヨウ素の色が変わる反応から飲み物に含まれるビタミンCの量を調べる実験を行った。



ヨウ素の色が変わる反応

⑤「シュワシュワぷくぷく大作戦」（参加者 34 名）

- ・レバーとオキシドールなど、身近な物を使って、酸素・水素・二酸化炭素を発生させた。また、紫イモ粉・クエン酸・重曹を混ぜ、色に変化する実験を行った。



紫イモ粉でシュワシュワ色変化

Ⅳ 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(3) 自然観察会

①「焼河原の化石」【令和7年4月20日(日), 参加者41名】

泉区西田中焼河原地区に露出する竜の口層は、タカハシホタテやセンダイヌノメハマグリ、タツノクチサルボウなどの貝類を中心に寒流系の海の生物の化石を多産するとともに、上部の向山層からは高温型石英や軽石なども採集でき、当時の環境について理解を深められるフィールドである。また、採集地を流れる西田中川は比較的水量も安定し、河床に広がる化石も発掘が可能である。午前・午後の2回実施し、大人17名、こども24名の計41名が参加した。



令和7年度実施のようす

②「台原森林公園の昆虫」【令和7年6月28日(土), 参加者19名】

例年、宮城昆虫地理研究会から講師を招いて開催するイベントである。午前中は、台原森林公園で昆虫採集を行い、午後は昆虫に関する講義の後、講師が持参したウスバシロチョウで展翅の練習を行い、参加者が自分で採集した昆虫の展翅を行う。本格的な標本づくりは初めての参加者が多かったが、講師の分かりやすい説明を聞き一生懸命に製作に取り組んでいた。作製した標本は乾燥が必要なため、8月に行われた「このムシ何ですか? 相談会」に来場いただき、持ち帰ってもらった。



令和7年度実施のようす

③「茂庭層の化石」【令和7年11月2日(日)】

市内各地のクマ出没情報を踏まえ、参加者の安全確保を優先し中止とした。

④「野鳥観察会」【令和7年2月14日(土), 参加者22名】

日本野鳥の会宮城県支部から講師を招いて開催した。はじめ実験室にて、双眼鏡の使い方、野鳥観察をする上での注意事項等確認したあと、台原森林公園にて野鳥の観察を行った。当日は天気にも恵まれ、25種類の野鳥を見ることができた。観察をしながら、見られた鳥について詳しく解説を聞くことができた。特にカラ類の混群や3種のキツツキが見られたことは参加者も大いに喜んでいて。観察後、実験室に戻り、見られた鳥の振り返りを行った。



令和7年度実施のようす

Ⅳ 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

（４）科学工作教室

科学工作教室は、小学生から一般の方々を対象に科学工作や電子工作を行う講座である。工作体験を通して科学技術に対する興味や関心を深め、親しむことを目的とする。

第1回科学工作教室「いろは姫を使った LED 工作教室」

日 時 令和7年7月5日（土） 10:00-12:00

講 師 メカトロで遊ぶ会 水谷好成先生

内 容 プログラムに応じて発光ダイオードを点灯させたり、色を変化させたりすることのできる『いろは姫』を使用した工作教室

参加者数 10 組

第2回科学工作教室「LED を使った光のインテリア工作」

日 時 令和7年12月6日（土） 10:00-12:00

講 師 メカトロで遊ぶ会 水谷好成先生

内 容 発光ダイオードを利用した、クリスマスシーズンにぴったりの光のインテリア工作

参加者数 10 組



第1回「いろは姫をつかった LED 工作教室」



第2回「LED を使った光のインテリア工作」

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(5) ロボット教室

小学3年生以上を対象に、ロボットの組み立てキット「梵天丸」の製作とプログラミングによる制御を行う講座。製作およびプログラミングにより、科学技術に対する興味や関心を深め、電子工作に親しむことを目的としている。初級（2回）・中級（1回）の2コース実施している。第1回（初級）は、午前中にロボット（梵天丸）の組み立てとその仕組みを学び、午後にはプログラムをつくってロボット（梵天丸）を制御する講習を行う。また、第3回（初級）は、マイクロビットを使ったロボット（ボンビット）でプログラミングを中心にして実施し、午前、午後の2回同内容を実施した。中級コースでは、梵天丸の製作とプログラムによる制御の経験者を対象に拡張製作と発展的なプログラミングを行っている。

なお、「梵天丸」は、こどもたちにもものづくりの喜びを体験させ、科学的な考え方を育むことを目的に開発された。仙台市科学館では、「メカトロで遊ぶ会」(<http://toro.inrof.org/>)とともに、ロボット教室を平成9年度から開催している。「梵天丸」はロボットの機能（センサー、コンピュータ、アクチュエータ）をすべて持っており、パソコンと接続してプログラムを書き込んで制御することができる。書き込むプログラムは、こどもたちにわかりやすいひらがなで記述されている「まきもの」と呼ばれる言語を採用している。

令和7年度ロボット教室

日時 第1回（初級）令和7年6月1日（日）10:00-15:00
第2回（中級）令和7年7月12日（土）10:00-15:00
第3回（初級）令和7年10月12日（日）①10:00-12:00 ②13:00-15:00

講師 メカトロで遊ぶ会 岩本 正敏 先生
水谷 好成 先生
鵜川 義弘 先生
日下 孝 先生

参加者数 第1回（初級） 10組（17名）
第2回（中級） 9組（14名）
第3回（初級） ①5組（9名） ②5組（10名）



第1回（初級）



第2回（中級）



第3回（初級）

Ⅳ 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

（6）化石鑑定会・昆虫相談会

①化石鑑定会 【令和7年8月11日（月）参加者：195名】

大学等研究機関の学識経験者と地元仙台の「みちのく古生物研究会」の協力のもと、小中学生をはじめとするアマチュア愛好家が採集した化石の同定や標本の製作方法を学ぶ場として開催している事業である。

仙台市とその近郊は、主に中新世以降の化石を多産する露頭が数多く存在する地域として全国的にも有名であり、小・中学生をはじめ大人にも化石の収集を趣味としている愛好家が多い。この化石鑑定会では、参加者が持ち込んだ化石や相談内容から、仙台をはじめ各地で新化石産地や新種化石、あるいは未報告であった化石が見つかることもあり、化石研究に対する貢献という面において、学芸的事業としての価値があるものである。

令和7年度は、仙台周辺の竜ノ口層・茂庭層の化石、南三陸や山形の化石などの相談が持ち込まれた。当日は、みちのく古生物研究会から8名が講師や案内役として参加し、午前の部（10:00-11:30）と午後の部（13:30-15:00）の開催で相談者と化石見学のみの参加者を合わせて計195名の参加があった。



②このムシ何ですか？相談会（昆虫相談会）【令和7年8月2日（土）来場者：654名】

自然に恵まれた仙台市周辺では、昆虫愛好家が多く、また、自由研究として昆虫採集・標本作りに取り組む小・中学生も多く当館への相談も多い。この昆虫相談会は、地元宮城の昆虫研究会である、宮城昆虫地理研究会の協力のもと、市民が採集した昆虫の同定を行うとともに、標本の製作方法などを学ぶ場として開催した事業である。以前は「昆虫相談会」として開催していたが、平成28年度特別展「見て！触って！わくわく昆虫館」以来、名称も親しみやすさを考慮し「このムシ何ですか？相談会」とした。

令和7年度は654名の方に入場いただいた。6月に行われた自然観察会で製作した標本の受取が7件、昆虫の相談が11件、見学が158件であった。昆虫採集の方法や標本の作り方の相談の他、昆虫の生態など昆虫に関する様々な質問が講師に寄せられ、参加者の昆虫に対する興味関心はさらに高まった。昆虫標本の展示や、台原森林公園で採集した昆虫の生体展示を行ったことで見学だけでも入りやすいようにしたことによって多くの方に来場していただいた。



＜図鑑を見ながら同定している様子＞

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(7) プログラミング教室

はじめてプログラミングを行う方を主な対象に、プログラムの考え方やプログラムの変化による動きの変化を学習できる教室を開催した。

簡単なプログラムから始め、最終的には自分の工夫を加えられるものへとプログラムを作成していくことを通し、体系的にプログラミングの基礎を学び、同時にプログラミングの楽しさを知ることができる内容を目指した。

プログラミング教室の教材は、実際に動きを確かめられるもので、仙台市立の小中学校に教材として配付されている株式会社アーテックの ArtecRobo2 を使用した。使用する言語は年少者でも視覚的にあつかえるプログラム学習用言語「Scratch」とした。また、プログラミングを行う端末として、仙台市立小中学校で全児童生徒が使っている Chromebook を用いた。

令和5年度より、ドローンを使ったコースを合計4回、中級コースを探究コースに改編して2回実施している。

令和7年度プログラミング教室

日時

- 第1回 6月29日(日) 10:00-12:00 (初級), 13:30-15:30 (初級)
- 第2回 8月31日(日) 10:00-12:00 (初級), 13:30-15:30 (初級)
- 第3回 11月1日(日) 10:00-12:00 (ドローン), 13:30-15:30 (ドローン)
- 第4回 12月14日(日) 10:00-12:00 (初級), 13:30-15:30 (探究)
- 第5回 1月18日(日) 10:00-12:00 (初級), 13:30-15:30 (探究)
- 第6回 2月22日(日) 10:00-12:00 (ドローン), 13:30-15:30 (ドローン)

講師 認定 NPO 法人 STORIA 原溪太朗先生
東北大学創造工学センター 日下孝先生

参加者数	第1回	19名
	第2回	15名
	第3回	17名
	第4回	14名
	第5回	17名
	第6回	13名

〈プログラミング教室の様子〉



※募集定員を各回10名として実施した。

Ⅳ 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

（８）紙飛行機教室

小学生から一般を対象に二宮氏の設計した紙飛行機（SKYCUB4）を製作し、調整を繰り返しながらよく飛ぶ紙飛行機を製作する。体験を通して、科学技術に対する興味や関心を深め、ものづくりに親しむことを目的とする。

令和 7 年度紙飛行機教室

日 時 第 1 回 令和 7 年 5 月 3 日（土）10:00-12:00
第 2 回 令和 7 年 11 月 8 日（土）10:00-12:00

講 師 仙台紙飛行機を飛ばす会 那須 博 先生
板垣 利嗣 先生

来場者数 第 1 回 26 組（52 名）
第 2 回 16 組（33 名）



特別展示室での講座の様子



製作した紙飛行機を実際に飛ばす様子

Ⅳ 事業概要

3 社会教育事業

【2 科学館支援組織の育成に関すること】

(1) サイエンス・インタープリターの活動

平成 11 年度にサイエンス・インタープリター(ボランティア)を導入して今年で 27 年目になる。サイエンス・インタープリターの方の中には、元大学教授や先端技術企業の技術者など、科学について専門的知識や技能をもつ方も多い。その技能を生かしながら常設展示物の解説やチャレンジ・ラボの工作・実験支援を行っている。今年度、常設展示室がリニューアルオープンし、来館者数も増加した。チャレンジ・ラボの工作・実験（トライタイム）の円滑な運営のために、サイエンス・インタープリターは、科学館にとって欠かせない存在である。

今年度は、新たに 9 名の方が新規で活動に参加し、計 65 名で活動した。また、学生ボランティアも 18 名の新規申込みがあり、計 32 名の方が登録した。サイエンス・インタープリターの主な活動内容は、チャレンジ・ラボでの工作・実験（トライタイム）の支援、館内案内・見守り、展示解説、サイエンスショーの 4 点で、展示解説とサイエンスショーは希望者のみ実施している。展示解説は、展示室内で自由に解説を行う形と、ワゴンに関連した実験が体験できる道具を展開して解説するワゴン解説の二通りの形をとっている。ワゴン解説は、現在 6 名の方が 18 種類のメニューで実施している。参加者は、延べ 1961 人であり、展示物のしくみや科学的な現象の理解を深める活動となっている。サイエンス・インタープリターによるサイエンスショーは、「空気は力持ち!？」と「空を飛ぶには」のメニューで計 7 回実施した。



トライタイムの様子



サイエンスショーの様子

IV 事業概要

3 社会教育事業

【2 科学館支援組織の育成に関すること】

(2) 科学館友の会行事の支援

仙台市科学館友の会は、科学館の活動に協力するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的に平成9年6月に発足した。平成13年には500名以上の会員を数えたが、無料入館パスポート等の普及もあり、年々会員数が減少した。さらに3月11日の東日本太平洋沖地震に起因する震災の影響で、平成23年度においては141名の会員数にとどまった。震災後は、年々会員数が増えていき、平成31年度（令和元年度）は374名となったが、令和3年度はコロナ禍の状況下で減少して168名となった。令和4年度は230名と回復傾向にあったが、令和5年度の会員数は211名に留まった。令和6年度は、4月に4階常設展示室がリニューアルしたこともあり、会員数は291名となった。今年度は、4月に3階常設展示室もリニューアルオープンしたことで、会員数はさらに増え、445名となった。

主な事業活動となる研修会について、今年度は全8回実施した。研修会等の事業内容は次のとおりである。

《研修会事業》

回	期 日	研修会名	参加人数
第1回	4月13日(日)	『リニューアル記念科学館ガイドツアー』	19人
第2回	5月18日(日)	『自然観察会～焼河原の化石～』	34人
第3回	6月11日(日)	『ロボットプログラミング教室』	10人
第4回	9月12日(土)	『鳥人間コンテスト強豪チーム「東北大学ウインドノーツ」の秘密に迫る！～大会出場機体に搭乗してみよう！～』	11人
	9月13日(日)		7人
第5回	10月5日(日)	『自然観察会～キノコを探して～』	26人
第6回	11月23日(日)	『化石採集会～旗立層・綱木層の化石～』 ※クマ出没の恐れがあるため中止 代替研修会『化石クリーニング体験会』	12人
第7回	12月21日(日)	『ドローンを使ったプログラミング教室』	11人
第8回	1月25日(日)	『化学実験教室～シャボン玉の科学～』	17人

《友の会通信発行事業》

令和7年度第1号（令和7年7月1日発行）

令和7年度第2号（令和8年3月1日発行）

《研修会のようす》



第2回『自然観察会～焼河原の化石～』



第5回『自然観察会～キノコを探して～』